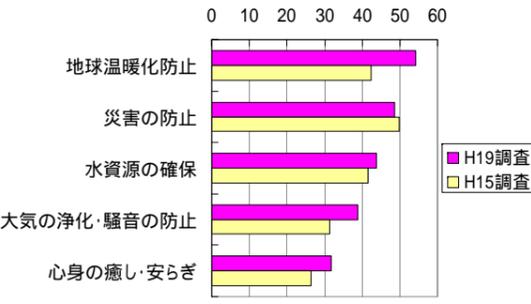
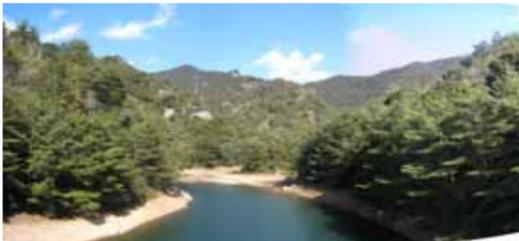


要因 事業	(1) 事業概要	(2) 事業による環境の変化	(3) 事業を巡る社会経済情勢の変化	(4) 事業により整備された施設の維持管理状況	(5) 県民の意見
環境 防災 林 整 備 事 業	<p>○事業名：環境防災林整備事業</p> <p>路線名及び地区名：白川地区</p> <p>所在地：西松浦郡有田町白川</p> <p>工期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当初工期：平成12年度～平成15年度 ・変更工期：平成12年度～平成15年度 <p>総事業費</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当初事業費 52,080千円 ・変更事業費 52,644千円 <p>事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・治山ダム 2個 ・流路工 26.13m ・森林整備 1.26ha <p>関連する事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活環境保全林整備事業（S56～S58） <p>背景</p> <p>当地区は、有田町市街地から北へ約2kmの「有田ダム」周辺に位置する。</p> <p>ダム周辺の森林は、昭和56～58年にかけて生活環境保全林整備事業によって、荒廃地等の復旧整備とともに生活環境を保全・形成するため、治山工事の施工と併せ、森林の整備が実施された。</p> <p>しかし、その後、流水により荒廃した溪流や、過密化し下層植生が乏しい森林が見られたことから、森林の防災機能や環境保全機能の低下等が懸念されていた。</p>	<p>生活環境</p> <p>治山ダム、流路工を施工したことにより、ダム湖への土砂の流出が抑制された。</p> <p>森林整備により下層植生が繁茂し、表土の流出が抑制された。</p> <p>○自然環境</p> <p>森林整備によってイロハモミジなどを植栽し、彩りのある景観をつくりだした。</p> <p>社会文化環境</p> <p>過密化した森林の整備を実施することで、散策などの利活用の向上に繋がった。</p> 	<p>近年では地球温暖化問題など環境への関心の高まりから、森林の重要性が一層認識されるようになった。</p> <p>内閣府が平成19年5月に実施した「森林と生活に関する世論調査」によると「森林に期待する働き」については、「地球温暖化防止に貢献する働き」の割合（54.2%）が最も高く、平成15年度の調査と比較しても上昇割合が最も高い。次いで「災害の防止の働き」の割合（48.5%）については若干下降したものの、その期待度は高い。なお、「心身の癒し・やすらぎの場を提供する働き」の割合は（31.8%）となり、平成15年度と比較すると上昇している。</p>  <p>平成16年度から10ヶ年計画で「5万haの間伐などの森林整備」と「100万本の広葉樹の植栽」を目標に健全で多様な森林づくり（こだまの森林づくり）に取り組んでいる。</p>	<p>県が実施した治山ダム等の構造物については、県で維持管理を行っており、治山施設としての機能を十分に発揮している。</p> <p>また、森林については、森林所有者である有田町によって管理されている。</p>  <p>（残置式木製型枠を利用した治山ダム）</p>	<p>施工地が自然公園内であるため、景観に配慮した構造の要望があり、谷止工の外観を残置式の木製型枠とした。また、流路工の護岸、底張りの資材については現地発生材を活用し、景観の保全と防災機能の向上の両立を図った。</p>  <p>（現地発生材を利用した流路工）</p>
	<p>目的</p> <p>森林の防災機能と環境保全機能を高度に発揮させるため本事業を実施した。</p> <p>事業では、荒廃溪流において、浸食の拡大や不安定土砂の移動を防止するため、治山ダムや流路工を設置するとともに、森林の整備を併せて実施した。</p> <p>なお、実施に当たっては、自然公園内であるため景観に配慮し施工した。</p>  <p>（荒廃した溪流）</p>	<p>(6) 事業の効果</p> <p>事業の直接的効果</p> <p>治山ダムや森林整備等の施工により、森林の機能が回復し、防災機能や水源かん養機能、保健休養機能の向上が図られた。</p> <p>事業の間接的、波及効果</p> <p>森林とダム湖の調和が図られ、訪れる人々に癒しの空間を提供するとともに、森林環境保全に対する意識の向上に貢献している。</p>  <p>（森林とダム湖の調和）</p>	<p>(7) 地域住民との関わり</p> <p>保全林内には、キャンプ場や林間広場、有田町とドイツのマイセン市との姉妹都市交流を記念して整備された「マイセンの森」などがあり、多くの人が訪れている。</p> <p>また、緑の少年団や小・中学校などの野外レクリエーションの場や学習・教育の場として利用されている。</p>  <p>（マイセンの森）</p>  <p>（野外レクリエーション）</p>	<p>(8) 今後の課題等</p> <p>森林の健全な生長を促進させ、その機能を維持していくためには、今後とも適切な保育作業が必要となる。</p> <p>これまででは、所有者である有田町において管理が行われてきたが、今後は、地域住民や地元企業等との協働意識の向上を図り、連携・協力して管理を行っていく必要がある。</p> 	<p>(9) 新規箇所評価、再評価への反映、改善点等</p> <p>事業の実施環境（地元関係者の要望や市町の取り組み状況）のみならず、整備後の維持管理体制（地元関係者の参加状況等）について評価する必要がある。</p>  <p>（森林の管理）</p>